



なは市民協働大学だより



自主ゼミ 特別号

発行月：令和元年9月
 発行：那覇市まちづくり協働推進課
 なは市民活動支援センター
 〒900-0004 那覇市銘苅 2-3-1
 なは市民協働プラザ 2階
 TEL:098-861-5024 FAX:098-861-5029

自主ゼミプログラム

月 日：令和元年8月10日（土）
 時 間：午前10:00-正午
 場 所：なは市民協働プラザ 2階 会議室③
 件 名：子どもの居場所と地域づくり
 講 師：保護管理課 副参事 山城 忠信氏
 山城塾 塾長 山城 勝秀氏
 参加者：受講生8名、飛入り参加3名

- オリエンテーション
- 自己紹介&アイスブレイク
- 質問回答タイム
- 適宜休憩
- 意見交換



質問. 子ども達が、どのようにして居場所を知るのが？

勝秀. 子ども達の口コミで繋がる子もいる。

質問. 子ども達との信頼関係の築き方、接し方を教えてほしい。

勝秀. 日常的に学校では怒られている子もいるので、この塾ではできるだけ怒らないようにしている。塾でいい事をしたらほめる。きまりを守れないときは、すぐに叱ることはしない。気づくまで粘り強く見守るだけ。また子ども達は、それぞれ、その子に応じた対応が必要であるが、特効薬や良い指導法がなかなか見つからない。しかし、支援後に毎回ミーティングを行って言葉かけや接し方に問題がなかったか話し合うようにしている。毎回反省点であるが、良かった事例を積み重ねている。

質問. 「貧困対策は、ボランティアではなく継続可能な組織作りが必要」とありましたが、何か考えがありましたら教えてください。

忠信. そもそも貧困問題というのは社会問題であり、行政だけで解決できるものではない。地域（市民も事業所も）も一緒にそれぞれができることを考え、対応していかないと根本的な解決はできないと思っている。そのための仕組みづくりは行政の責任だと思うし、専門性が高い支援などには継続できるような対応が必要だと思う。

質問. 本当にこども食堂を必要としているこどもが足を運んでいるのでしょうか。

忠信. 分からない。たぶん足りていない。学校等で目立つ子どもなら把握できているが、こども食堂が必要な子どもは他にもいるだろう。そういう子はわからないように隠していることもある。なので、もっともっと地域内で繋がる必要がある。地域の繋がりが強い地域では各世帯の色々な情報を持っている。だからこういう仕組みがなくても、自然と助け合う行動が起こせる。

はいたい！受講生のみなさま、こんにちは。先月開催した自主ゼミの様子をご報告いたします。

◎概要：第2回なは市民協働大学『講座①子どもの居場所と地域づくり』に各グループから提出された質疑を元に、講師陣から回答をいただきました。主な内容は下記のとおりです。（講師がお二人とも「山城」さんの為、下のお名前で記します。保護管理課山城副参事→「忠信」、山城塾山城塾長→「勝秀」）

質問. 支援を必要とする子ども達をどの様に見ているのか？
 忠信. 探し出すのは難しいし、時間を要す。少なくとも、子どもに関わっていく機会がないと始まらない。現在行っている支援でピックアップして繋ぐ、または地域のネットワークの繋がりで、支援を必要とする子どもを知る。



講師&受講生の皆さんお忙しい中、時間をつくって参加されており、会場内が熱い思いで溢れていました。ありがとうございました。

